

事業報告書

平成29年度

(第10期事業年度)

自 平成29年 4月 1日

至 平成30年 3月31日

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

I 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の概要

1 設立目的

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

2 事業内容

- (1) 医療の提供に関すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 医療に関する技術者の研修に関すること。
- (4) 医療に関する地域への支援に関すること。
- (5) 災害時における医療救護に関すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

3 沿革

平成 20 年 4 月 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構設立

- ・山形県立日本海病院を日本海総合病院として開院
- ・酒田市立酒田病院を日本海総合病院酒田医療センターとして開院

平成 30 年 4 月 酒田市立八幡病院の統合等

- ・酒田市立八幡病院等を統合、日本海八幡クリニック、升田診療所、青沢診療所、松山診療所、地見興屋診療所及び飛島診療所を運営開始
- ・酒田医療センターを日本海酒田リハビリテーション病院に改名

4 設立根拠法

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）

5 所在地（平成 29 年 4 月 1 日現在）

- (1) 法人の主たる事務所 酒田市あきほ町 30 番地
- (2) 設置、運営する病院

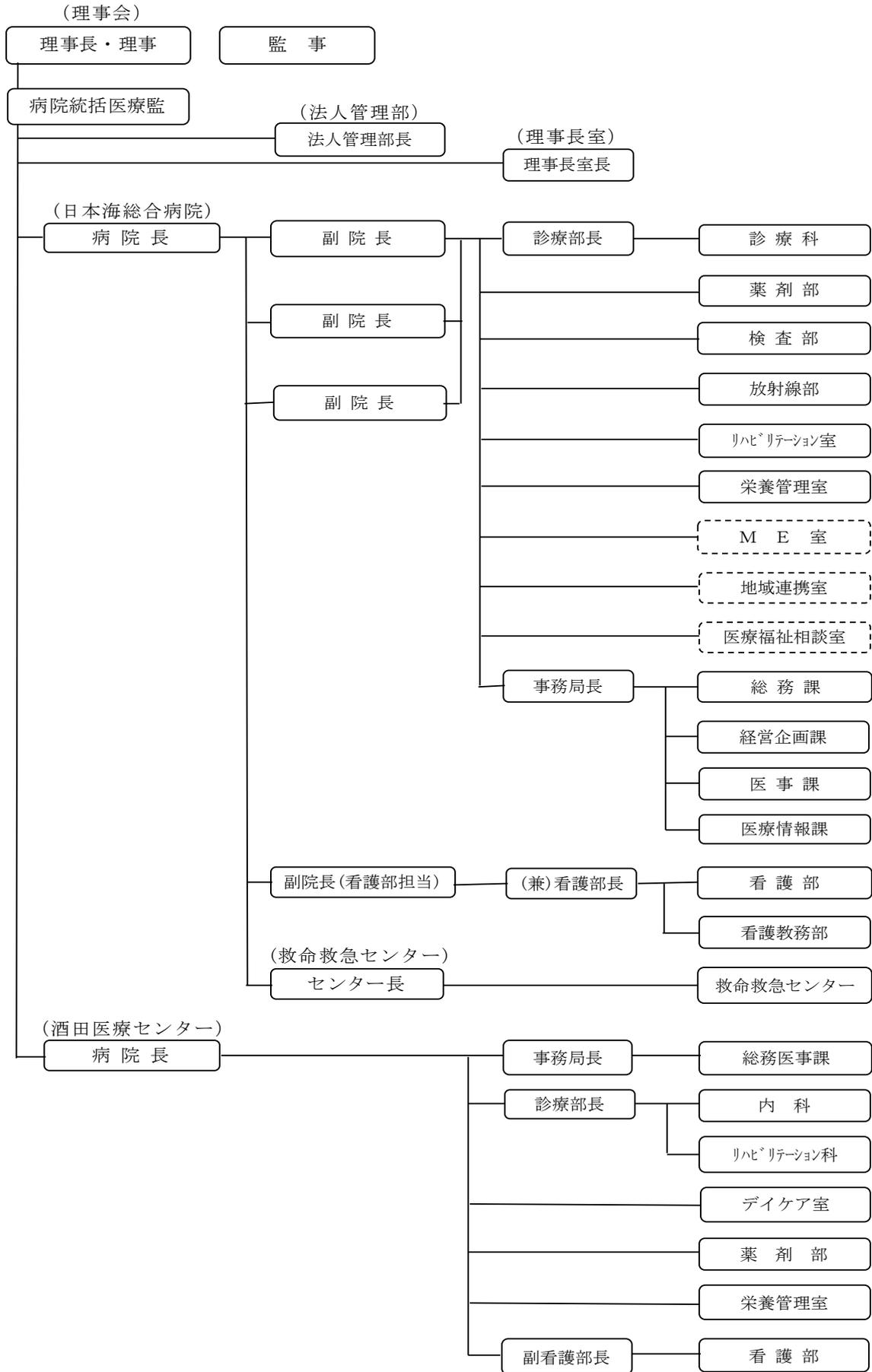
日本海総合病院	酒田市あきほ町 30 番地
日本海総合病院酒田医療センター	酒田市千石町二丁目 3 番 20 号

6 役員（平成 29 年 4 月 1 日現在）

役 職	氏 名	任 期	経 歴	備 考
理事長	栗谷 義樹	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 32 年 3 月 31 日	平成 20 年 4 月 日本海総合病院、酒田医療セン ター病院長 平成 28 年 4 月 現職	病院統括医療 監
理 事	島貫 隆夫	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	平成 26 年 4 月 日本海総合病院院長代理 平成 28 年 4 月 現職	日本海総合病 院病院長
理 事	鈴木 晃	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	平成 22 年 4 月 日本海総合病院診療部長 平成 26 年 4 月 現職	酒田医療セン ター病院長
理 事	小熊 正樹	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	平成 20 年 4 月 現職	日本海総合病 院副院長
理 事	内村 文昭	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	平成 22 年 4 月 日本海総合病院診療部長 平成 26 年 4 月 現職	日本海総合病 院副院長
理 事	齊藤 宗一	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	平成 22 年 4 月 日本海総合病院診療部長 平成 26 年 4 月 現職	日本海総合病 院副院長
理 事	佐藤 由枝	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	平成 21 年 4 月 日本海総合病院副看護部長 平成 27 年 4 月 現職	日本海総合病 院副院長（看 護部担当）
理 事	五十嵐 誠一	平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	平成 28 年 4 月 山形県庄内総合支庁総務企画部 総務課長 平成 29 年 4 月 現職	法人管理部長
監 事	齋藤 俊勝	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	昭和 48 年 6 月 公認会計士齋藤俊勝事務所 代表取締役 平成 20 年 4 月 現職	公認会計士
監 事	加藤 栄	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	平成 24 年 8 月 山形海区漁業調整委員会 会長 平成 20 年 4 月 現職	弁護士

7 組織（平成 29 年 4 月 1 日現在）

組 織 機 構



※破線の組織は、室長以外は他部門に所属。(ME室⇒経営企画課、地域連携室⇒看護部、医療福祉相談室⇒医事課)

8 資本金の状況（平成30年3月31日現在）

	平成28年度 (平成29年3月31日)	平成29年度 (平成30年3月31日)	増減
	資本金合計	15,935,827,678円	17,230,662,678円
山形県出資金	9,221,065,307円	10,205,772,307円	984,707,000円
酒田市出資金	6,714,762,371円	7,024,890,371円	310,128,000円

9 常勤職員の状況（平成30年3月31日現在）

職種	病院	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
		H28	H29	増減	H28	H29	増減	H28	H29	増減
医師・歯科医師	職員数	143	148	5	4	4	0	147	152	5
	平均年齢	39.7	39.4	△ 0.3	52.8	53.8	1.0	40.0	39.8	△ 0.2
医療技術員	職員数	140	144	4	37	43	6	177	187	10
	平均年齢	38.0	37.7	△ 0.3	31.5	31.0	△ 0.5	36.6	36.2	△ 0.4
看護・介護職員	職員数	567	574	7	54	55	1	621	629	8
	平均年齢	38.6	38.5	△ 0.1	42.5	44.3	1.8	38.9	39.0	0.1
事務職員	職員数	44	45	1	5	4	△ 1	49	49	0
	平均年齢	39.2	39.6	0.4	44.6	48.3	3.7	39.8	40.3	0.5
スタッフ職員	職員数	40	39	△ 1	6	5	△ 1	46	44	△ 2
	平均年齢	44.5	45.3	0.8	48.3	47.0	△ 1.3	45.0	45.5	0.5
計	職員数	934	950	16	106	111	5	1040	1061	21
	平均年齢	38.9	38.9	0.0	39.5	39.8	0.3	39.0	39.0	0.0
法人職員	職員数	926	946	20	103	108	5	1029	1054	25
	平均年齢	38.8	38.8	0.0	39.4	39.8	0.4	38.9	38.9	0.0
県派遣職員	職員数	6	4	△ 2	0	0	0	6	4	△ 2
	平均年齢	53.0	55.3	2.3	—	—	—	53.0	55.3	—
市派遣職員	職員数	2	0	△ 2	3	3	0	5	3	△ 2
	平均年齢	53.0	—	—	42.3	43.3	—	46.6	43.3	—

※理事長、法人管理部長及び理事長室長は日本海総合病院に、参事は酒田医療センターに含む。

Ⅱ 平成29年度の財務情報

1 財務諸表の要約

(1) 貸借対照表

(百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	22,136	固定負債	15,029
有形固定資産	20,960	資産見返負債	70
無形固定資産	149	長期借入金	6,222
投資その他資産	1,027	移行前地方債償還債務	2,771
流動資産	19,493	長期寄付金債務	7
現金及び預金	9,072	引当金	5,959
有価証券	6,900	流動負債	4,338
未収入金	3,430	一年内返済予定長期借入金	1,010
たな卸資産	75	一年内返済予定移行前地方債償還債務	737
その他	16	未払金及び未払費用	1,937
		預り金	75
		引当金	579
		負債合計	19,367
		純資産の部	金額
		資本金	17,231
		資本剰余金	1,953
		利益剰余金	3,078
		純資産合計	22,262
資産合計	41,629	負債純資産合計	41,629

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(2) 損益計算書

(百万円)

科目	金額
営業収益	20,290
営業費用	19,421
営業外収益	1,019
営業外費用	1,008
經常利益	880
臨時利益	13
臨時損失	86
当期純利益	808

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(3) キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	3,249
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 426
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 74
IV 資金増加額	2,748
V 資金期首残高	3,824
VI 資金期末残高	6,572

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(4) 行政サービスコスト計算書 (百万円)

科 目	金 額
I 業務費用	635
損益計算書上の費用	20,515
自己収入等 (控除)	△ 19,879
II 損益外減価償却相当額	19
III 機会費用	8
IV 行政サービスコスト	662

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

2 財務諸表の概要

主要な財務データの前年度比較・分析 (百万円)

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	増 減
当期純利益	587	808	221
資 産	40,069	41,629	1,560
負 債	19,891	19,367	△ 524
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,004	3,249	1,245
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,328	△ 426	1,902
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 76	△ 74	2

(当期総利益)

患者 1 人 1 日当たりの診療単価の増による入院収益の増加などにより、総収益 213 億 22 百万円に対し総費用 205 億 15 百万円で当期純利益は 8 億 8 百万円となり、前年比で 2 億 21 百万円増加した。

(資産)

平成 29 年度末時点の資産合計は、前年比で 15 億 60 百万円増加した。これは、現金預金などの流動資産が 39 億 77 百万円増、長期性預金などの固定資産が 24 億 17 百万円減となったことが主な要因である。

(負債)

平成 29 年度末時点の負債合計は、前年比で 5 億 24 百万円減少した。これは、移行前地方債償還債務などの固定負債が 5 億 53 百万円減となったことが主な要因である。

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

平成 29 年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で 12 億 45 百万円の収入増となった。これは、前年度と比較して事業収入が 9 億 32 百万円増となったことが主な要因である。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

平成 29 年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、前年比で 19 億 2 百万円の収入増となった。これは、前年度と比較して有価証券の売却による収入が 25 億円増となったことが主な要因である。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

平成 29 年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で 2 百万円の収入増となった。これは、前年度と比較して長期借入金収入が 45 百万円増、長期借入金償還による支出が 94 百万円増、金銭出資の受入による収入が 51 百万円増となったことが主な要因である。

3 重要な施設等の整備等の状況

- ・Ⅲ－第 1－2－(1) イ (14 ページ)
- ・Ⅲ－第 7－3 (31 ページ) 参照

4 予算及び決算の概要

- ・Ⅲ－第 3－1 (26 ページ) 参照

5 経費の削減及び効率化に関する目標及びその達成状況

- ・Ⅲ－第 2－3 (2) (25 ページ) 参照

Ⅲ 平成29年度の事業概要

日本海総合病院及び日本海総合病院酒田医療センター(以下「酒田医療センター」という。)は、将来にわたり持続可能な経営に向けて努力するとともに、「安心、信頼、高度な医療提供」及び「保健、医療、福祉の地域連携」の基本理念に基づいた医療を提供するため、以下のような取組みを行った。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 病床機能の分化・連携

(1) 日本海総合病院の機能

「高度急性期」医療機能を有し、急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向け、次表のような診療密度が特に高い医療を提供した。

【日本海総合病院の機能】

項目	概要										
許可病床数	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">一般病床</td> <td style="text-align: right;">642床</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">(うち、救命救急センター</td> <td style="text-align: right;">24床)</td> </tr> <tr> <td>感染症病床</td> <td style="text-align: right;">4床</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border-top: 1px solid black; padding-top: 5px;">合 計</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">646床</td> </tr> </table>	一般病床	642床	(うち、救命救急センター	24床)	感染症病床	4床	合 計			646床
一般病床	642床										
(うち、救命救急センター	24床)										
感染症病床	4床										
合 計											
	646床										
標榜科 (27診療科)	内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、緩和ケア内科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科										
診療機能等	<ul style="list-style-type: none"> ・救命救急センター（ICU、HCU） ・PETセンター ・外来化学療法室 ・LDR室（陣痛・分娩・回復室） ・未熟児室 ・認知症疾患医療センター ・特殊診察室及び感染症室（陰圧・陽圧室） ・人工透析室 ・ハイブリッド手術室 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・災害拠点病院 ・へき地医療拠点病院 ・臨床研修病院 <p style="text-align: right;">など</p>										

(2) 酒田医療センターの機能

急性期を経過した患者について、次のような医療を提供した。

- ① 「回復期」医療機能を有し、在宅復帰に向けた医療及びADL（日常生活動作）の向上を目的としたリハビリテーションを提供した。
- ② 「慢性期」医療機能を有し、長期にわたり療養を必要とする患者及び重度障がい者等の受け入れを行った。

【酒田医療センターの機能】

項目	概要
許可病床数	医療療養型療養病床 35床
	回復期リハビリテーション病床 79床
	合 計 114床
標榜科 (2診療科)	内科、リハビリテーション科
診療機能等	<ul style="list-style-type: none"> ・回復期リハビリテーション ・通所リハビリテーション ・在宅重症難病患者一時入院機能 ・機能訓練室 ・デイケア室 ・臨床研修病院 <p style="text-align: right;">など</p>

2 高度専門医療・回復期医療の提供及び医療水準の向上

(1) 高度専門医療・回復期医療等の充実・強化

ア 診療体制の充実

(ア) 救急医療(日本海総合病院)

- ① 庄内二次医療圏で唯一の救命救急センターとして、24時間365日、地域に信頼される医療の提供に努めた。

【実績】救命救急センター延べ患者数

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
24,012 名	25,039 名	23,619 名	23,775 名

- ② 酒田地区広域行政組合及び鶴岡市消防本部との連携を強化し、救急医療の充実を図るため、救急医療講演会を開催した。

【実績】救急医療講演会

実施日等	研修内容	参加人数
H29.10.20 日本海総合病院 講堂	「北庄内地域における救急医療連携推進のためには」 講師：さとう内科クリニック院長 (一社)酒田地区医師会十全堂副会長 佐藤 顕 氏	74 名

- ③ 救命救急センターの機能強化のため、一般社団法人酒田地区医師会十全堂と連携し、平日夜間救急外来を継続して行った。

【実績】酒田地区医師会診療支援による延べ患者数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
小 児 科	581名	624名	585名	436名
そ の 他	1,280名	1,250名	1,081名	824名

(イ)がん医療(日本海総合病院)

- ① 地域がん診療連携拠点病院として、手術、放射線治療及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療を提供した。

【実績】手術、放射線療法、外来化学療法の件数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
手術	1,068件	1,117件	1,093件	1,140件
放射線療法	6,726件	7,959件	7,931件	7,438件
外来化学療法	3,739件	4,337件	4,167件	5,122件

※「外来化学療法」は、延べ件数である。

- ② 高度専門的ながん医療を提供するため、平成30年2月から高精度放射線治療装置（IMRT）治療棟の整備を開始した。
- ③ 患者の病態に応じ、より適切で効果的ながん医療を提供するため、専門的な知識及び技能を有する医療従事者（がん相談員）を「医療・福祉センター」に配置し、専門研修に参加させるなど体制の強化を図った。

【実績】がん相談件数

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
963件	1,041件	1,142件	1,183件

- ④ 早期に適切な緩和ケアを提供するため、がん診療サポートチームを中心に、病棟回診及び緩和ケア外来を継続して実施し、緩和ケア医療の充実を図った。また、医師に対する緩和ケア研修会を開催するなど体制の強化を図った。

【実績】緩和ケア件数

	平成 28 年度	平成 29 年度
病棟回診	299 名	351 名
緩和ケア外来	135 名	186 名

【実績】緩和ケア研修会

	平成 28 年度			平成 29 年度		
	受講者数	対象者数	受講率	受講者数	対象者数	受講率
がん患者の主治医や担当医となる医師	61 名	64 名	92.4%	63 名	66 名	95.5%
研修医～卒後 5 年目までの医師	34 名	34 名	100.0%	40 名	42 名	95.2%
合計	95 名	98 名	96.9%	103 名	108 名	95.4%

- ⑤ 院内がん登録及び地域がん登録について、地域がん診療連携拠点病院として、次のとおりがん登録を行い、がん対策の進展に貢献した。

【実績】がん登録件数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
院内がん登録	1,589件	1,379件	1,709件	1,761件
地域がん登録	1,549件	1,389件	1,661件	—
全国がん登録	—	—	—	1,778件

(ウ)脳卒中・急性心筋梗塞(日本海総合病院)

- ① 機能回復のため、高度専門的な内科的又は外科的治療を速やかに行い、早期にリハビリテーションを開始するよう努めた。また、休日のリハビリテーションを継続して実施した。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

※H28年10月～休日の脳血管リハ開始

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	実患者数	単位数 (回数)	実患者数	単位数 (回数)	実患者数	単位数 (回数)	実患者数	単位数 (回数)
脳血管疾患	1,492名	49,034回	1,146名	48,726回	772名	42,652回	756名	53,943回
心大血管疾患	689名	17,556回	698名	16,770回	752名	19,051回	670名	18,139回

【実績】休日のリハビリテーション実施状況

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	実患者数	単位数 (回数)	実患者数	単位数 (回数)	実患者数	単位数 (回数)	実患者数	単位数 (回数)
脳血管疾患	/	/	/	/	330名	1,493回	622名	3,387回
心大血管疾患	374名	1,571回	408名	1,542回	494名	1,357回	555名	2,162回

- ② 急性心筋梗塞の治療にあたっては、救急搬送患者に対して、医師、看護師、コメディカルスタッフが連携し、治療及び入院体制を整え、速やかに集中治療室に転送するとともにDoor to balloon time90分以内(病院到着時から、カテーテル治療による血流再開までの時間)を実践した。

【実績】Door to balloon time90分以内実施件数

平成 28 年度	平成 29 年度
15 件	22 件

(エ)糖尿病(日本海総合病院)

医師、看護師、管理栄養士等が協働し、治療又は生活習慣改善のため、糖尿病教室等の患者教育・指導を次のとおり行った。

【実績】糖尿病教室

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
開催回数	16 回	19 回	19 回	15 回
参加人数	55 名	65 名	69 名	44 名

【実績】糖尿病透析予防指導の実患者数、指導回数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
実患者数	30名	14名	6名	8名
指導回数	73回	32回	19回	19回

【実績】教育入院患者数

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
65名	66名	64名	68名

【実績】個別栄養指導件数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院	300件	298件	253件	257件
外来	400件	396件	296件	350件
合計	700件	694件	549件	607件

(オ)精神疾患(日本海総合病院)

地域の精神科病院等との役割分担及び連携を図り、電気痙攣療法等の高度専門的な医療を提供した。また、精神疾患のある身体合併症患者について、今後の患者動向等を踏まえながら、急性期治療体制等の確立を目指すこととした。

【実績】精神科電気痙攣療法の実施件数

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
164件	147件	109件	152件

(カ)小児・周産期医療(日本海総合病院)

- ① 二次周産期医療機関として、他の医療機関との機能分担及び連携を図り、ハイリスク分娩への対応など、周産期に係る高度な産科医療を実施した。

【実績】母体・新生児の救急受入れ状況

平成27年度			平成28年度			平成29年度		
母体	新生児	緊急帝王切開術	母体	新生児	緊急帝王切開術	母体	新生児	緊急帝王切開術
5名	4名	27件	19名	4名	26件	10名	5名	23件

- ② 産科及び小児科の専門医の充実した体制により、地域の住民が安心して出産できる環境を提供するとともに、三次周産期医療機関である山形県立中央病院及び鶴岡市立荘内病院との連携を図った。

【実績】母体・新生児の救急搬送患者数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
母体	5名	8名	14名	15名
新生児	3名	1名	2名	4名

(キ)回復期リハビリテーション(酒田医療センター)

脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等により障害が生じた患者のADLを改善し、早期に在宅療養または社会復帰ができるよう、理学療法士等の増員を図るとともに、休日におけるリハビリテーションを実施するなど、集中的なリハビリテーションを提供した。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	実患者数	回数 (単位数)	実患者数	回数 (単位数)	実患者数	回数 (単位数)	実患者数	回数 (単位数)
脳血管疾患	375名	66,175回	323名	85,823回	258名	82,014回	224名	85,353回
運動器	187名	29,045回	166名	30,572回	183名	44,051回	207名	59,826回

(ク)在宅医療支援及び療養支援

- ① 日本海総合病院では、退院後の患者が在宅療養へ円滑に移行し、切れ目なくサービスを受けることができるよう、地域連携室の看護師及び医療福祉相談室の退院支援専任社会福祉士が、地域の介護、福祉、医療機関との連携を図りながら、退院調整業務等において積極的に支援を行った。

【実績】退院調整件数(日本海総合病院)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
他病院	984 件	893 件	969 件	946 件
在宅	416 件	450 件	13,878 件	14,506 件
介護老人保健施設	98 件	101 件	134 件	82 件
介護老人福祉施設	118 件	92 件	84 件	139 件
ショートステイ	82 件	75 件	137 件	103 件
有料老人ホーム	112 件	151 件	222 件	226 件
その他	69 件	62 件	118 件	99 件
合計	1,879 件	1,824 件	15,542 件	16,101 件

※平成 28 年度診療報酬改定により、各病棟に専任の退院支援職員を配置したことから、在宅への退院調整件数が大幅に増加している。

- ② 在宅患者が安心して地域で療養ができるよう、「大腿骨近位部骨折地域連携パス」及び「脳卒中地域連携パス」を運用し、関連施設や関連機関との診療情報の共有及び評価等を行うなど連携を図り支援を行った。

【実績】地域連携診療計画加算算定数(日本海総合病院)

平成 28 年度	平成 29 年度
295 件	248 件

- ③ 酒田医療センターは、訪問リハビリテーションについて、短時間リハビリテーションの提供体制と併せて、引き続き検討することとした。

- ④ 酒田医療センターは、在宅医療を行っている診療所等と連携を図り、入院治療が必要となった患者を23名受け入れた。

イ 高度医療機器の計画的な更新・整備(日本海総合病院)

- ① 高度専門医療等の充実のため、平成29年度は次のとおり医療機器の更新を行った。

【実績】平成29年度の医療機器更新状況

診療科	機器名	備考
放射線部	デジタル一般撮影システム	更新
ME室	人工心肺装置	更新
手術室	手術部門システム(自動麻酔記録装置及び生体情報モニタ)	新規及び更新
検査部	血清免疫自動分析装置	更新
循環器内科	エキシマレーザー	新規
放射線部	デジタルマンモグラフィシステム	更新

- ② 高度医療機器については、装置の稼働率、設置に対する採算性、収支の予測を十分に行い更新した。

ウ 災害時や健康危機における医療協力(日本海総合病院)

- ① DMAT等の派遣を要する災害等が発生しなかったため、医療支援活動を行うことはなかったが、災害発生時に備え、各種訓練や研修会に積極的に参加し出動態勢を整えた。
- ② 庄内SCU(航空搬送拠点臨時医療施設)の運営協力として、山形県所有の医療用資機材を日本海総合病院のDMAT資材庫で保管し管理等を引き続き行った。
- ③ 災害拠点病院の機能を十分に発揮できるよう、災害時に必要な医療物資等を備蓄するほか優先納入契約を継続し、災害時医療体制の充実・強化を図った。また、患者及び職員の食糧備蓄の補充を行った。

【実績】補充した主な食糧備蓄

区分	購入内容	数量
患者用	主食・水	各1,200食分
職員用	主食・おかず・水	各6,000食分

- ④ 周辺地域で災害等が発生した場合に備え、災害対策委員会が主体となって、日本海総合病院全職員、委託業者及び地域の医療従事者を対象に、災害医療研修及び訓練を次のとおり実施した。

【実績】 災害医療研修及び訓練

実施日	場所	内容	参加人数
H29. 5. 18	日本海総合病院 講堂	(災害医療研修会) 災害医療の基礎とトリアージ	163名
H29. 6. 29	日本海総合病院 講堂・エントランスホール	(災害医療研修会) 模擬患者を使ったトリアージ研修会	146名 (うち、院外協力17名)
H29. 7. 27	日本海総合病院 講堂	(災害医療研修会) アクションカードを使った災害時の初動対応	123名
H29. 9. 9	日本海総合病院 エントランスホール ほか	(災害対応机上訓練) 机上での災害対応訓練の流れ	140名
H29. 10. 21	日本海総合病院 エントランスホール ほか	(災害対応実働訓練) 協力：酒田地区広域行政組合消防本部 医療法人 健友会 本間病院 酒田市立酒田看護専門学校 鶴岡市立荘内看護専門学校	242名 (うち、院外協力26名)

他の機関が実施した災害医療訓練及び研修に参加するとともに、職員を講師等として派遣した。

【実績】 他の機関が実施した災害医療訓練及び研修

訓練日程	内容	会場	参加人数
H29. 7/16(日)～ 7/17(月・祝)	DMA T技能維持研修 (南東北ブロック)	山形市 ビッグウィング	講師 2名 研修 3名
H29. 7/29(土)	総合防災訓練 (国)	大阪府 和歌山県	インストラクター 2名 訓練 5名
H29. 9/30(土)～ 10/1(日)	東北DMA T参集訓練	福島県	インストラクター 2名 訓練 5名
H29. 10/6(金)～ 10/7(土)	緊急消防援助隊 北海道・東北ブロック合同訓練	置賜地域	インストラクター 2名 訓練 4名
H30. 1/13(土)～ 14(日)	DMA T技能維持研修 (東北ブロック)	仙台市 急患センター	講師 2名

- ⑤ 地域住民の生命を脅かす新たな感染症や薬物・食中毒等の健康危機事象が発生した際に、関係機関との緊密な連携のもと迅速な対応ができるよう、庄内保健所主催による研修会に参加した。

【実績】庄内保健所主催による研修会

実施日等	研修内容等	参加人数
平成 29 年 11 月 21 日 日本海総合病院 第 2 会議室	「新型インフルエンザの脅威と対策」 山形大学医学部附属病院検査部・感染制御部長 森兼 啓太 氏	55 名 (うち院内 12 名)

エ 政策医療の実施(日本海総合病院)

- ① 庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、当地域の民間の医療機関では導入が困難である、高精度放射線治療装置 (IMRT) の整備を進めた。
- ② 第二種感染症指定医療機関として、感染症に迅速かつ的確に対応するため、関係機関とともに「庄内地域新型インフルエンザ等関係機関対策合同訓練」に参加した。

【実績】庄内地域新型インフルエンザ等関係機関対策合同訓練

実施日等	関係機関
平成 29 年 11 月 21 日 庄内空港及び 日本海総合病院	全日本空輸株式会社庄内空港所、庄内空港事務所、庄内空港ビル株式会社、日本海総合病院、庄内保健所

- ③ 認知症疾患医療センター運営事業実施要綱に基づき、認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等を行った。

【実績】相談件数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
新規相談件数	741 件	591 件	502 件	554 件
継続相談件数	355 件	321 件	342 件	340 件

- ④ へき地医療拠点病院として、酒田市との協定により酒田市飛島診療所に 4 月から 10 月まで合計 16 回、医師を派遣し、離島の診療応援を行い、地域住民の医療の確保に努めた。

【実績】平成 29 年度 飛島診療所 診療応援医師派遣回数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	合計
2 回	2 回	3 回	4 回	2 回	1 回	2 回	16 回

- ⑤ 地域において必要性の高い救急医療、周産期医療、小児医療を担う医療機関として、新たに 1 名が救急科専門医の資格を取得するなど、各医療分野の専門医の確保に努めた。

【実績】新たな専門医資格取得

救急科専門医	1 名
--------	-----

- ⑥ 脳死下臓器移植について、院内コーディネーター及び関係部門が参加し脳死下臓器提供シミュレーションを実施した。

【実績】実施内容

実施日等	内容等	参加人数
平成30年3月7日 日本海総合病院講堂	「脳死下臓器提供シミュレーション」 山形大学医学部腎泌尿器外科学講座 助教 西田 隼人 氏	22名

(2) 医療スタッフの確保及び資質向上

ア 医療人材の確保・育成

- ① 日本海総合病院は、高度専門医療等の安定的な提供を図るため、職員を研修又は学会等に派遣するなど、専門資格を有する医療従事者の確保・育成に努めた。

【実績】主な参加研修等

特定看護師特定行為研修参加	1名
リンパトレナーゼセラピスト講習会参加	2名
救急専門医資格取得	1名

- ② 日本海総合病院は、新専門医制度において内科領域及び産婦人科領域の基幹施設として認定を受けるとともに、平成30年度に内科専攻医4名を採用することとなった。
- ③ 日本海総合病院は、臨床研修医34名、レジデント27名を受け入れ、医師の確保に努めた。
- ④ 日本海総合病院は、地方独立行政法人那覇市立病院の2年次臨床研修医2名と日本海総合病院2年次臨床研修医8名の交換地域医療研修を実施した。
- ⑤ 教育・研修体制の充実及び自己研鑽・研究のサポート体制の充実に努め、各職種の専門性の向上を図るため、年6回の役職別研修に加え、各部門独自で専門能力を高める研修や、特別研修としてメンタルタフネス研修を開催した。
- ⑥ 優秀な看護師及び助産師を育成・確保するため、看護師等修学資金貸与を継続して行い、新規貸与者5名を含む計16名に修学資金の貸与を実施した。また、貸与終了者6名のうち2名が当機構職員として入職した。
- ⑦ 認定看護師の資格取得のため看護師2名を研修に派遣した。

【実績】派遣研修（研修期間平成29年9月～平成30年3月）

集中ケア認定看護師	1名
救急看護認定看護師	1名

イ 事務職員の確保と専門性の向上

- ① 診療情報管理士等の専門資格の取得及び研修の充実により、事務職員の資質向上を図った。

【実績】専門資格の取得及び研修状況

診療情報管理士通信教育受講 (うち診療情報管理士資格取得1名)	6名
メディカルレコードコーディネーター資格取得	10名

- ② 病院運営の高度化・複雑化に対応できる組織を作るため、係長級以上の事務職員を対象にマネジメント研修を実施し、事務職員の育成に取り組んだ。また、事務の専門能力の向上を目的とした会計実務研修を実施した。

ウ 職員の勤務環境の改善

- ① 職員が仕事に誇りを持ち、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を確保し、意欲的かつ安心して業務に従事できる環境づくりとして、育児短時間勤務、病児・病後児保育、夜間保育などの活用を推進し、働きやすい職場作りに努めた。

【実績】利用者数

育児短時間	育児部分休業	病児病後児保育	夜間保育
1名	1名	延べ 105名	延べ 4名

- ② 家族の介護や子育て等を行う医師への支援として、女性医師に対するベビーシッター等利用料の助成を行った。また、医師のキャリアパスに配慮し、短時間正職員制度など多様な勤務形態を継続して実施した。

【実績】医師短時間職員制度等の利用状況

医師短時間	育児部分休業	ベビーシッター等助成金
2名	1名	1名

- ③ 病棟看護師の負担軽減と勤務形態の多様化を図るため、前年度の4階南病棟に加え、新たに3階南病棟において、二交代制勤務を開始した。
- ④ 医師をはじめとする医療従事者の負担軽減を図るため、病棟及び外来に医師事務作業補助者(医事クラーク)を配置した。

【実績】医事クラークの配置数

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
52名	61名	64名	64名

(3) 医療サービスの効果的な提供

ア 地域連携の推進

- ① 日本海総合病院は、良質な医療サービスを効果的に提供するため、庄内二次医療圏における中核的な医療機関としての役割を果たし、他の医療機関との連携の推進により、目標とする地域医療支援病院の指定要件である紹介率50%かつ逆紹介率70%以上を達成した。

【実績】年度別 紹介率、逆紹介率 ※地域医療支援病院における算出方法による。(歯科口腔外科を含む。)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値
紹介率	47.2%	52.7%	64.4%	65.5%	50%
逆紹介率	67.5%	77.8%	97.2%	100.5%	70%

- ② 日本海総合病院は、平成 26 年度から締結している、山形県立こころの医療センターとの「医療連携及び緊急時の患者搬送措置に関する覚書」及び「医療観察保護法対象者の入院受入協定書」に基づき、急性期医療が必要となった患者の受入体制を引き続き整えるとともに、平成 29 年度は新たに医療法名山容会山容病院と「医療連携及び緊急時の患者搬送措置に関する覚書」を締結した。
- ③ 日本海総合病院は、患者の広域化に対応し、ICTを活用して地域、医療圏を超えた医療連携を推進するため、県立中央病院との連携を開始した。
平成 30 年 3 月、山形県地域医療対策課主催の医療情報ネットワーク全県化会議において、医療情報ネットワークの広域化についての協議に参加した。
- ④ 地域包括ケアシステムの構築に向け、行政機関、地域包括支援センター及び地域の介護、福祉機関と連携を行い、また、積極的な情報交換や、退院時カンファレンス等の取り組みの強化により、医療・介護・福祉へと円滑で切れ目のないサービスの提供に努めた。

【実績】 指導件数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
退院時共同指導	73 件	68 件	90 件	84 件
介護支援連携指導	795 件	877 件	1,077 件	909 件

イ 診療情報の共有化

- ① 庄内二次医療圏全体で、効率的で適切な医療やケアを提供するため、地域医療情報ネットワーク等の ICT を活用し、他の医療機関や介護、福祉施設等との診療情報の共有化を推進した。また、医療と介護の連携として、完全非公開型医療・介護専用ソーシャルネットワークサービスの活用を開始した。

【実績】 登録患者数等 (平成 30 年 3 月現在)

登録患者数	32,401 名 (前年比 5,920 名増)
開示施設数	7 施設
閲覧施設数	186 施設

- ② 日本海総合病院は、総務省の「医療等分野における相互接続基盤の在り方に関する実証」に参加し、医療専用ネットワークにおいて、マイナンバーカードと医師資格証の併用による画像情報連携についての実証実験を、群馬大学医学部附属病院と共同で実施した。

ウ 地域連携クリニカルパスの活用(日本海総合病院)

- ① 効率的で適切な医療を提供するため、患者への負担の軽減及び他の医療機関との機能分担を図りながら、地域連携クリニカルパスを継続して活用した。

【実績】 地域連携クリニカルパス適用件数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
肺 が ん	0 件	0 件	0 件	0 件
大 腸 が ん	21 件	15 件	11 件	6 件
肝 が ん	0 件	0 件	0 件	0 件
乳 が ん	14 件	17 件	16 件	9 件
胃 が ん	19 件	24 件	19 件	10 件
大腿骨頸部骨折	144 件	110 件	128 件	105 件
脳 卒 中	246 件	226 件	195 件	149 件
心臓リハビリテーション	87 件	112 件	116 件	108 件
前立腺がん	17 件	48 件	65 件	24 件

(4) 教育研修事業の充実

ア 庄内地域における医療水準の向上(日本海総合病院)

- ① 庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、臨床研修医及びレジデントの受入れ、並びに、山形大学からのスチューデントドクター及び東北大学からの地域医療実習生を継続して受け入れ、質の高い医療従事者の育成に努めた。

【実績】 臨床研修医等の受入れ状況

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
臨床研修医	28 名	29 名	28 名	34 名
レジデント	28 名	22 名	26 名	27 名
スチューデントドクター (山形大)	51 名	87 名	75 名	70 名
臨床医学修練生(東北大)	0 名	2 名	1 名	5 名
地域医療実習生(東北大)	5 名	4 名	5 名	6 名

- ② 酒田市立酒田看護専門学校の実習施設として、看護教員の養成のため、平成 29 年度看護教員養成研修に職員 1 名を派遣した。
- ③ 救急医療の水準向上を図るため、救急救命士養成課程の臨床実習、就業前研修、再教育実習及び山形県消防学校救急科の病院実習を実施し、計 60 名の実習生の受入れを行った。

【実績】 実習生受入人数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
臨床実習	4 名	4 名	3 名	3 名
就業前研修	3 名	3 名	5 名	1 名
再教育実習	36 名	38 名	41 名	39 名
病院実習	9 名	9 名	15 名	17 名
計	52 名	54 名	64 名	60 名

イ 住民意識の啓発活動(日本海総合病院)

- ① 住民を対象としたセミナーとして、生涯学習施設「里仁館」で開催された健康講座に、職員を派遣するとともに、広報紙「あきほ」を年4回発行し、医療や健康に関する情報発信を行った。

【実績】健康講座

開催日	題名	講師
平成29年5月24日	感染症について	齊藤 宗一副院長
平成29年6月7日	過活動膀胱について	牛島 正毅医師
平成29年7月5日	放射線治療について	黒田 勇氣医師

- ② 住民の健康意識の向上のため、地域住民を対象とした市民公開講座を開催し、がんに関する情報提供を行った。

【実績】市民公開講座

実施日等	内容等	参加人数
平成29年7月29日 ホテルリッチ & ガーデン酒田	地域がん診療連携拠点病院公開講座 生きるセンス 食べるセンス 出すセンス ～がん治療中における「いのち」と「食」と「排泄」のヒント～ コミュニティスペースややのいえ 榑原 千秋 先生	166名

3 患者・住民の満足度の向上

- ① 日本海総合病院は、患者やその家族のニーズを把握するためアンケート調査を実施した。また、業務改善委員会の提案等により、患者サービスの向上のため改善を行った。

【主な改善等】

・患者駐車場の表示板を見やすく覚えやすいものに改修
・患者や家族向けに情報を発信するため、床頭台のコンテンツ内容を改善
・患者等来院者向けのお知らせ等を見やすくするため、デジタルサイネージを設置

- ② 日本海総合病院は、来院者の意見を取り入れ、院内環境等の向上、受付から会計までの在院時間や入院手続きの改善を図るため、入院センターを新設し、患者等の動線の見直しと入院手続きの改善を図った。
- ③ 山形県地域医療構想を踏まえ、それぞれの病院の役割等を、ホームページ、病院広報紙「あきほ」及び市広報等を活用してPRを行った。

4 法令等の遵守と情報公開の推進

- ① 職員一人ひとりが、山形県・酒田市病院機構倫理綱領及び法令順守意識の徹底のため、コンプライアンス等の職員研修を実施し周知徹底に取り組んだ。
- ② 山形県・酒田市病院機構における各病院の経営状況を病院概要の発行及びホームページで公表した。

- ③ カルテ等医療情報の開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもと、県の機関に準じて行った。

【実績】診療情報提供申出件数（日本海総合病院）

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
64 件	74 件	60 件	56 件

- ④ 適切な情報管理や情報セキュリティ対策の強化を図るため、「ちょうかいネット」利用者等を対象に研修会を開催した。

また、インターネットを経由したサイバーテロの増加に伴い、事務部門および放射線部門の職員に対して、サイバー攻撃の手段とその対応策について研修を行った。

【実績】ちょうかいネット利用者等を対象にしたセキュリティ研修会

実施年月	対象者	参加状況
平成 29 年 7 月・8 月	新規に参加した介護事業者等	16 施設・23 名
平成 29 年 12 月	全参加施設	26 施設・34 名

5 医療安全対策の充実・強化

- ① 医療安全対策の充実・強化を図るため、医療安全対策委員会を中心に次のような活動を行い、医療安全管理者を中心に、各部署の医療安全推進者(リスクマネージャー)と連携しながら、インシデントの事例共有、分析、改善策について検討し、医療安全対策の向上に努めた。

【実績】医療安全対策委員会研修会

実施日等	研修内容等	参加人数
平成 29 年 4 月 28 日 日本海総合病院講堂	医療安全対策委員会第 1 回全体研修会 『輸液ポンプ更新に伴う説明会』 日本海総合病院 ME 室 主任臨床工学技士 白幡 貢	193 名
平成 29 年 10 月 30 日 日本海総合病院講堂	医療安全対策委員会第 2 回全体研修会 『医療者間コミュニケーション～相手のことを考えて、伝えていきますか～』 SOMPO リスケアマネジメント株式会社 医療リスクマネジメント事業部 上級コンサルタント 橋本 勝 先生	224 名
平成 29 年 12 月 11 日 日本海総合病院講堂	医療安全対策委員会第 3 回全体研修会 『薬について学ぼう～インシデント事例より～』 日本海総合病院 医療安全室 SM 齋藤伸子, 薬剤部 RM : 阿部美佐緒, 摂食嚥下障害看護認定看護師 : 池田真喜, 医療安全リンクナース	186 名

院内感染対策については、院内感染の防止を図るため、感染制御チーム及び院内感染対策委員会を中心に次のような研修会を開催した。

【実績】院内感染対策研修会

実施日等	研修内容等	参加人数
平成 29 年 8 月 9 日 日本海総合病院 2 階講堂	第一回院内感染対策研修会 『末梢静脈ルートの感染予防について』 講師：(株)大塚製薬 伊藤 太郎氏	522 名
平成 29 年 11 月 13 日 日本海総合病院 2 階講堂 1 階エントランス	第二回院内感染対策研修会 『楽しく学べる感染対策の重要ポイント』 講師：浜松医療センター副院長 矢野 邦夫先生	269 名 (うち院外 17 名)

- ② 医療安全マニュアル及び院内感染対策マニュアルについて、各委員会においてマニュアルの遵守について徹底を図った。

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 組織マネジメントの強化

運営委員会、診療部代表者会議、経営会議及び業務改善委員会等を定期的に開催し、組織マネジメントの強化に努めた。

2 診療体制の強化、人員配置の弾力的運用

- ① 医療需要の変化等に迅速かつ的確に対応するため、定期及び臨時の人事異動により適材適所の配置に努めた。
- ② 患者のニーズに対応するため、地域連携室の勤務時間に遅番を設け、効率的な業務運営に努めた。

【実績】遅番時間帯での相談件数

平成 29 年 12 月	平成 30 年 1 月	平成 30 年 2 月	平成 30 年 3 月	合計
18 件	13 件	6 件	5 件	42 件

3 経営基盤の安定化

(1) 収入の確保

① 平成29年度における、1日あたりの患者数、病床利用率等は次のとおりであった。

【患者動向】

区 分	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
	H28	H29	増減	H28	H29	増減	H28	H29	増減
延入院患者数(人)	188,230	188,013	△217	37,404	36,962	△442	225,634	224,975	△659
新入院患者数(人)	16,058	16,785	727	579	588	9	16,637	17,373	736
入院/1日(人)	515.7	515.1	△0.6	102.5	101.3	△1.2	618.2	616.4	△1.8
病床利用率(%)	81.9	81.8	△0.1	89.9	88.8	△1.1	-	-	-
病床回転率(%)	260.0	271.6	11.6	46.5	49.1	2.6	-	-	-
平均在院日数(日)	11.7	11.2	△0.5	65.4	62.0	△3.4	-	-	-
延外来患者数(人)	335,448	345,801	10,353	816	723	△93	336,264	346,524	10,260
新外来患者数(人)	29,538	28,310	△1,228	65	60	△5	29,603	28,370	△1,233
外来/1日(人)	1,380.4	1,417.2	36.8	3.4	3.0	△0.4	1,383.8	1,420.2	36.4
延通所リハ利用者数(人)	-	-	-	2,786	4,046	1,260	2,786	4,046	1,260
通所リハ/1日(人)	-	-	-	11.5	16.6	5.1	11.5	16.6	5.1
病床数	630	630	0	114	114	0	744	744	0

【患者1人1日当たりの診療単価(税抜)】

単位：円

日本海総合病院	H28	H29	増減	酒田医療センター	H28	H29	増減
入院	63,328	68,113	4,785	入院	26,933	27,887	954
外来	14,504	15,276	772	外来	3,774	3,682	△92

【目標値】

	入院 患者数	外来 患者数	病床 利用率	平均在院 日数	入院 診療単価	外来 診療単価
日本海総合病院	516人/日 以上	1,300人/日 以上	80%以上	12.0日以内	62,000円/日 以上	13,000円/日 以上
酒田医療センター	102人/日 以上	3人/日以上	90%以上	-	26,000円/日 以上	3,000円/日 以上

② 診療報酬請求の請求漏れや査定による減点等を防止するため、診療報酬点検委員会において迅速に対策を行い、改善事項については速やかに院内周知を行うなど、チェック体制の強化を図った。

③ 診療報酬改定等を始め各種制度の変化に迅速に対応し、施設基準(特定集中治療室管理料3、特定集中治療室管理料4)の取得により増収を図った。

- ④ 未収金の発生防止及び早期回収のため、個人医療未収金回収業務を弁護士法人に委託し、また、分納等による個人未収金の早期回収に対応するため、未収金徴収の専門職員を引き続き配置した。

(2) 費用の抑制

職員給与費比率及び材料費比率等、費用の抑制に努めた。

また、後発医薬品の数量シェアについては、国による目標値の達成に努めた。

【営業収益に占める主な費用の比率】

	職員給与費	材料費	うち薬品費
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	43.8%	26.9%	14.3%
酒田医療センター	73.6%	2.1%	1.4%

【営業収益に占める主な費用の比率の目標値】

	職員給与費	材料費	うち薬品費
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	46.6%以内※	27.7%以内※	14.9%以内※
酒田医療センター	70%以内	4%以内	3%以内

※総務省が公表している「平成27年度地方公営企業決算状況調査」における全国500床以上の黒字公立病院の平均値

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支及び資金

収支の実績

収支は次のとおりであった。

【営業収支比率及び経常収支比率】

	営業収支比率	経常収支比率
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	105.8%	105.3%
酒田医療センター	85.4%	90.3%
病院機構全体	104.5%	104.3%

【営業収支比率及び経常収支比率の目標値】

	営業収支比率	経常収支比率
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	100%以上	100%以上
酒田医療センター	80%以上	80%以上
病院機構全体	100%以上	100%以上

1 予算及び決算

(単位：百万円)

区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収 入	21,991	23,467	1,476
営業収益	18,809	20,314	1,505
医業収入	18,232	19,756	1,524
運営費負担金	577	558	△19
営業外収益	992	1,029	37
運営費負担金等	818	820	2
その他	174	209	35
資本収入	2,190	2,110	△80
金銭出資の受入	1,294	1,295	1
長期借入金	895	811	△84
その他	1	4	3
その他の収入	0	14	14

(単位：百万円)

区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
支 出	21,560	22,381	821
営業費用	17,699	18,269	570
医業費用	17,521	18,095	574
給与費	9,190	9,404	214
材料費	5,104	5,607	503
経費	3,121	2,988	△133
研究研修費	106	96	△10
一般管理費	178	174	△4
営業外費用	292	287	△5
資本支出	3,568	3,824	256
建設改良費	1,378	1,634	256
長期借入金返還金	2,181	2,181	0
修学資金貸付	9	9	0
その他の費用	1	1	0

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収 入	19,769	21,322	1,553
営業収益	18,787	20,290	1,503
医業収益	18,202	19,724	1,522
運営費負担金収益	577	558	△19
資産見返補助金等戻入	8	8	0
営業外収益	982	1,019	37
運営費負担金収益	818	820	2
その他医業外収益	164	199	35
その他の収入	0	13	13
支 出	19,751	20,514	763
営業費用	18,772	19,421	649
医業費用	18,607	19,259	652
一般管理費	165	162	△3
営業外費用	969	1,008	39
その他の費用	10	85	75
純 利 益	18	808	790

3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
資金収入	34,176	36,398	2,222
業務活動による収入	19,799	20,958	1,159
診療業務による収入	18,231	19,380	1,149
運営費負担金による収入	1,396	1,378	△18
補助金等収入	31	49	18
その他の業務活動による収入	141	151	10
投資活動による収入	8,000	9,510	1,510
有価証券の売却による収入	8,000	9,500	1,500
補助金等収入	0	5	5
その他の投資活動による収入	0	5	5
財務活動による収入	2,188	2,106	△82
長期借入による収入	894	811	△83
金銭出資の受入による収入	1,294	1,295	1
前年度からの繰越金	4,189	3,824	△365
資金支出	29,561	29,826	265
業務活動による支出	17,992	17,709	△283
給与費支出	9,264	9,557	293
材料費支出	5,104	5,614	510
その他の業務活動による支出	3,624	2,538	△1,086
投資活動による支出	9,388	9,936	548
有形固定資産の取得による支出	1,378	1,884	506
無形固定資産の取得による支出	0	142	142
有価証券の取得による支出	8,000	7,900	△100
その他の投資活動による支出	10	10	0
財務活動による支出	2,181	2,181	0
長期借入の返済による支出	953	953	0
移行前地方債償還債務等の償還による支出	1,228	1,228	0
翌年度への繰越金	4,615	6,572	1,957

第4 短期借入金の限度額

短期借入金の実績なし

第5 剰余金の使途

平成29年度の決算剰余金については、建設改良積立金に充当し将来の施設整備及び医療機器の整備に備えた。

第6 料金に関する事項

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構使用料及び手数料規程に基づき使用料の徴収を行った。

第7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する事項

- ① 医療需要の変化や医療政策の動向を踏まえ、5回の職員採用試験を実施し、医療従事者の確保に努めた。

【実績】採用者内訳

職 種	平成30年4月採用人数
看護師	19名
薬剤師	7名
臨床検査技師	1名
診療放射線技師	1名
理学療法士	3名
作業療法士	3名
言語聴覚士	2名
臨床工学技士	1名
遺伝カウンセラー	1名
計	38名

- ② 能力や経験等に対する評価として、認定看護師や専門薬剤師等に資格手当を支給し、また、学会参加費及び看護師特定行為研修の受講料等を負担するなど、職員のモチベーションの向上を図り、認定看護師資格の新規取得など、将来の病院運営を担う人材を育成した。

【実績】認定看護師及び専門薬剤師数内訳

認定看護師数	19名
専門薬剤師数	7名

2 職員の就労環境の整備に関する事項

- ① 職員一人ひとりが、それぞれの分野で専門知識や能力を十分に発揮できるよう、また、多職種によるチーム医療を推進するため、新たに「がんサーボード」を定期的開催した。

【実績】がんサーボード回数

H29.9月	H29.10月	H29.11月	H29.12月	H30.1月	H30.2月	H30.3月	合計
2回	2回	2回	2回	1回	3回	2回	14回

- ② 職員の心理的負担を把握するためのストレスチェック後の面接指導を実施し、更に「職場環境改善に関する意見書」を所属部門に提出するなど、メンタルヘルス対策の充実を図った。
- ③ 不適切な言動、行為等に起因する、職員の精神的・身体的損害及び生産性の低下を防止するため、ハラスメント相談窓口を活用し、職場環境を改善する体制を整備した。
- ④ 院内保育所「あきほ保育園」では、年末・年始（12月29日から1月3日まで）を除き、24時間保育を実施した。また、継続して病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、当該事業を活用し職員の就労環境の向上に努めた。

【実績】院内保育所「あきほ保育園」利用者数

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
38名	32名	28名	29名

【実績】院内保育所「あきほ保育園」終夜利用者数

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
99名	27名	4名	4名

3 医療機器・施設整備に関する事項(日本海総合病院)

- ① 費用対効果、地域の医療需要、他の機関との機能分担、医療技術の進展などを総合的な判断のもと、高度医療機器においては、装置の稼働率、設置に対する採算性、収支の予測を十分に行い更新及び整備した。

- ② 建物診断の結果に基づき策定した中長期修繕計画に従い、緊急度が高い設備の修繕工事を以下のとおり行った。

【実績】主な修繕工事

工事名	契約額(円)	概要
空調機ユニット等更新工事	67,500,000	耐用年数の超過と塩害により劣化している病棟空調機(8基)と当該機器等の給気チャンバーBOX及び給気ダクトの更新。
ファンコイルユニット更新工事	19,980,000	耐用年数の超過により劣化しているファンコイルユニット(50台)の更新。
空調・衛生ポンプ更新工事	54,000,000	耐用年数の超過により劣化している空調ポンプ(28基)、衛生ポンプ(12基)及び起動用電磁接触器等の電気部品の更新。
チリングユニット更新工事	19,332,000	耐用年数の超過により劣化している冷凍機(2基)の更新。
医療ガス設備圧縮空気供給装置更新工事	21,060,000	耐用年数の超過している医療ガス設備の圧縮空気供給装置(1式)の更新。
エレベーター更新工事	48,600,000	耐用年数の超過により一部の部品供給が終了した油圧用エレベーター(2基)の更新。

- ③ 高額な医療機器等の更新及び整備については、償還等の負担を十分に考慮し、中長期的な投資計画(整備計画)のもとに行った。

【医療機器・施設整備の計画】 (単位：百万円)

区分	予定額	財源
資本支出		
建設改良費	1,634	設立団体からの 長期借入金等
施設整備	648	
医療機器等	986	

4 積立金の使途

前期中期目標期間の繰越積立金は、施設の整備、医療機器の購入等に充てた。

5 その他法人の業務運営に関する事項

- ① 日本海総合病院は、酒田市、公益財団法人やまがた健康推進機構及び診療所等との連携及び機能分担のもと、がん検診をはじめ地域の検診体制の充実を図った。

日本海総合病院では、酒田市が実施した「内視鏡ドック」のうち、次の項目を継続して担った。

【実績】内視鏡ドック件数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
上部内視鏡	142件	122件	107件	115件
下部内視鏡	142件	121件	105件	115件
胸部CT	142件	123件	107件	115件
PET/CT	49件	52件	36件	60件

一般社団法人酒田地区医師会十全堂及び公益財団法人やまがた健康推進機構との連携、機能分担のもと、地域住民の検診を行った。

日本海総合病院は、酒田市へのふるさと納税の返礼品として、納税額に応じた3種類の人間ドックを実施した。

- ② 病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、「庄内北部定住自立圏形成協定」に則って三川町、庄内町及び遊佐町に在住の乳幼児等も受け入れる体制を整え、日曜日、祝日、年末年始休業(12/29～1/3)を除き、通年で事業を継続して実施した。

【実績】病児・病後児保育事業延べ利用者数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
延べ利用者数	291名	263名	246名	300名
うち職員利用者数	105名	96名	90名	105名